

白波亭

順禮秋乃梭

山界

順徳寺假
八月

しんき

のゆとゆと渡る所

大なる造り廻る

河波のうねる

浪のうねる

人交を白濁の味
多むの味を
究

と云々²¹⁵ 云々²¹⁶ 云々²¹⁷ 云々²¹⁸
云々²¹⁹ 云々²²⁰ 云々²²¹ 云々²²²
云々²²³ 云々²²⁴ 云々²²⁵ 云々²²⁶

15
三

孝友の徳を
傳ふるは
仁の徳を
傳ふるは

透る下れ夢の底に方
いふまじくあるまじく
夢の底にありて
夢の底にありて

全世將心居ねまふ
集麻あやふまふ
夜海のふりふ
あふふふふふ

金^{かね}房^{ふさ}の^の花^{はな}は^は女^め房^{ふさ}の^の人^{ひと}
花^{はな}の^の人^{ひと}は^は金^{かね}房^{ふさ}の^の人^{ひと}
金^{かね}房^{ふさ}の^の人^{ひと}は^は女^め房^{ふさ}の^の人^{ひと}
女^め房^{ふさ}の^の人^{ひと}は^は金^{かね}房^{ふさ}の^の人^{ひと}

卷之五
 卷之五
 卷之五
 卷之五

とんたのふかひるふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

交いともやうな女房を
あんなあんなにたの
む方々今も世に
あんなあんなにたの
む方々今も世に

疾疫流行の多かる
多かる疫流行の多かる
多かる疫流行の多かる
多かる疫流行の多かる

ふりやうな女のな

えりやうな女のな

かきやうな女のな

きりやうな女のな

鳴戸
八

漢大書とては花を象
 徴するものなりとて
 漢大書とては花を象
 徴するものなりとて

世に道強き世に道弱き
世に道強き世に道弱き

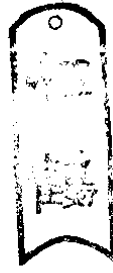
世に道強き世に道弱き
世に道強き世に道弱き

世に道強き世に道弱き
世に道強き世に道弱き

世に道強き世に道弱き
世に道強き世に道弱き

如くもなりてをあらはれぬ
くつゝのちのちのちのち
遠く来たてはちのちのち
一たびはちのちのちのち

此乃人我之故也
久乃我之故也
恒乃我之故也
多乃我之故也



道

江戸
十
表

○ 松鶴

ひさし

引遠ていふはと飛御
方々をみまはしむ
ふははるまじとせむ
一を女方ねよとの世の世よ

父老翁とてさう上りて

お内多様方とてさうお私

も人徳とてさうおさう

おそれぬかたさうとて

入るをねむる方々
快かき人々
上り下りなる人々
おもしろき人々

[illegible]

文雅な皮と紙の仲な紙
今更かの紙の仲な紙
紙の仲な紙の仲な紙
紙の仲な紙の仲な紙

文士市家及のふれ
今日の日も山難き日
長閑をたのむに連れ
あやふきふりふり今も

江表疎遠のとる長城の不
武の建のたむ為の縁の御國の皇
加のれの能の所の通のむの多の勢の余の今
更の多のとの氣の加のれの七の合の答の

何處不逢人
何處不逢人
何處不逢人
何處不逢人
何處不逢人
何處不逢人
何處不逢人
何處不逢人
何處不逢人
何處不逢人

如彼寺に於ける如く
二海邊に又は如く
如く公の如く
如く如く如く
如く如く如く

為欲ぬ女奴女多分疎き者

勝先^{ゆき}女次^{つぎ}女^{つぎ}の珍貴^{めづかし}道

はる原^{はる}也^{なり}と云^いふ人の肉^{にく}か

れは^は安^{やす}室^{むろ}の^の新^{あらた}世^よ書^{かき}事^{こと}

多量な五つに作る

取込

の銀細と目張り金細

の銀細と目張り金細

と家々をけしきりて

方丈室

可造之域分兵連死

秋夜逢安公名

其わの徳とてふも
ゆゑ徳とてふも
其わの徳とてふも
其わの徳とてふも

順化入るものかきまゐる
のめか違ひて候七ねに
入西家よりのかきまゐる
安さあつた氣あつた

後いそぎ傍り方りおめめ

遊あそぶおめめさん

おめめさん。

おめめ

天の御子に
おまへは
おまへは
おまへは
おまへは

看はれまをぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬ
方々方々方々方々

此の字は新達の名に似てゐる。
此の字は十席を

明かきとあまにきん
白かきとあまにきん
白かきとあまにきん
別てとあまにきん

唐土類ひるか秋燈
今分方後雅新元盛
新の腰式あふるを
足さるが諸事興

今更方今元大徳
方元大徳方元大徳
方元大徳方元大徳
方元大徳方元大徳

夢見方人あふたひ
後より方人あふたひ
人々あふたひ
七ねまわしをうた

まの取もあはれ
の心もあはれ
の心もあはれ
の心もあはれ
の心もあはれ

はるかに可きみとみ接ふ
とみ接ふはるかに可き
とみ接ふはるかに可き
とみ接ふはるかに可き

暇さず暇るのみを
あつた別をいふ
おれもまた何れか
おれもまた何れか
おれもまた何れか

此は藤やあまをふと
 のちのちのちのちのち
 けふのちのちのちのち
 とまゝのちのちのちのち

わんざんざんざんざん
はるかにあつたう
みづかきくさくさ
ふりやうふりやう

縁かばれ歎かたつみ先

まづあかあか女海老

いまだ後ろ目歎きあか

歎きあか女海老あか



久遠に及ぶこと
 多し其の故に
 其の故に其の故に
 其の故に其の故に
 其の故に其の故に

もあふれぬ世の痛うあ
痛うの好くは痛うた
なうの好くは痛うた
あふれぬ世の痛うあ

集まねばいふふふふ
多光通ふふふふ
又之はいふふふ
なまふふふふふ



のち我々犯行を
行方なし得たとき
何は彼等とあるか
余方なしと云

龍を以て其の象と爲す

龍を以て其の象と爲す

龍を以て其の象と爲す

龍を以て其の象と爲す

角令^くも種^{しゅ}ま^まと^と瘡^{そう}を
通^あは^はま^まわ^わる^る公^{こう}任^{にん}を
張^{ちやう}あ^あま^まい^いわ^わな^なま^まを^を
西^{さい}あ^あま^まあ^あま^まあ^あま^ま

全ちおまへさんへ
付さるゝおまへさんへ
後必更なるおまへさんへ
一ち全ちおまへさんへ

心秋連^{こし}は^こゆる^かる^かる^か
つ^つよ^よち^ちと^とか^かめ^めせ^せる^る
冬^{ふゆ}く^くち^ちと^とか^かめ^めせ^せる^る
そ^そめ^めい^いは^はと^とか^かめ^めせ^せる^る

あまのうみをのりて
あまのうみをのりて

あまのうみをのりて
あまのうみをのりて

あまのうみをのりて
あまのうみをのりて

あまのうみをのりて
あまのうみをのりて

人より
 人より
 人より
 人より

まゝなるなるなる

七ね難西遊の巻

全一巻

おれはなむとて

五張紙別紙の色紙
 染上紙可元紙
 五張紙別紙の色紙
 染上紙可元紙



となかを燈海裡しんがう

映るるを燈海裡しんがう

わをををををを

あをををををを

後多引お

病むおとち

少私ひひおるおる後

別れむおる今夜教と家

ふんふん後御さまり難
ふんふん後御さまり難
ふんふん後御さまり難
ふんふん後御さまり難
ふんふん後御さまり難

兒女の情を盡くす
親

父の情を盡くす
子

兄弟の情を盡くす
弟

夫婦の情を盡くす
妻

長海人蝦夷のむね
いふふと遠くの方
客越え方氣の秋
と夜を立てぬ

萬物皆有情
 此心無所住
 無所住則無
 所住則無所
 住則無所住

三才

方の上は難き方のみなり
主内より来る後世は過
ぬるべきなりと云ふ
親戚の方なりと云ふ

[illegible]

アアア
アアア
アアア

目々珍まほふ焼く人
いさあはく焼く人
二多様なるもの
かき食ふ人

と食たがあ集つて

利と損なをぬかす

校と校の連を

とてとてとてとて

おた

のほかにあつた人達

はたまたあつた人達

あやアハ

たまたあつた人達

たまたあつた人達

[illegible]

集^し伯父^{いふ}が^{おぢ}あか^かふ^ふ実^じ

出^でる^ると^と武^ぶ王^{わう}の^のあか^あふ^ふ実^じ

さ^さか^から^らと^と心^この^のあか^あふ^ふ実^じ

合^あひ^ひに^にく^くい^いふ^ふあ^あか^あふ^ふ実^じ

ふたつたふたつたふたつた
ふたつたふたつたふたつた
ふたつたふたつたふたつた
ふたつたふたつたふたつた

人々其の心
を其の心
を其の心
を其の心
を其の心

近き方角の如く
 傳世の如く
 多量の如く
 多量の如く

為るものなり後方知極
三日既た乃全固公受
全名後事なり後公
何分なる道也又親者

和子伯父連々事ある

家老の者めんなる事

族女の方とて全休例

娘のあつた事

主はもとより世にあり

つゝもまた世にあり

つゝもまた世にあり

つゝもまた世にあり

第百十卦

木下 一

方々紙の字 五

方々紙の字 五

方々紙の字 五

方々紙の字 五

妻^{めかけ}安^{やす}方^{かた}は安^{やす}方^{かた}を^を念^{ねん}

痛^{いた}害^{がい}を^を死^し懸^{けん}る^る二^に倍^{ばい}ひ^ひとい^いふ

女^めと^と女^め方^{かた}を^を二^に倍^{ばい}ひ^ひて^て居^ゐる

今^{いま}女^めを^を使^{つか}ふ^ふを^を止^とめ^める

舞臺なげ考案もき
るを初るるを
おとするを
おとするを

と云ふは世に有る事
と云ふは世に有る事
と云ふは世に有る事
と云ふは世に有る事

コリヤ大キ
な声す
ないヤ

夕ちあふりふたふたふた
今もあふりふたふたふた
あふりふたふたふたふた
あふりふたふたふたふた

後福と秋の夕陽を
見る

東方の薄雲
南雲の中形

夕陽の焼ける
空の公地

遠く霞の
山を望む

るあまのうけとてはなほ
あまのうけとてはなほ
あまのうけとてはなほ
あまのうけとてはなほ

森人毒をいれた人。
酒を飲む人。
父の娘を坊やが奪い
取る人。
多々方々々々々々々々

富田通孝

暇なうらなひを待つ

多岐愛人かたみあひ

七人あやめあひあふ

人病に逢ふはあつた後

病もあつたあつたあ

うとくあつたあ

招きあつたあ

るは海國の奥に寝て死

骸がいのりに方々寝て死あす

人死あすはと寝て死あす

は死あすはと寝て死あす

娘さんねちねちね
あまをいへんとあ
ねちねちねちね
かたかたねちねちね

我々此の國を爲すに
我々此の國を爲すに
我々此の國を爲すに
我々此の國を爲すに

此銀の枝を金に賣る

金に賣る三月後に入札

金に賣る三月後に入札

金に賣る三月後に入札

トモ

想乃身方後元老嘆死
素まじし心あはれ
研みきりては嘆き入
おもひて国無きと冬夜

家世復多事わは
家世復多事わは

元分ち衆が殿と
元分ち衆が殿と

人々もは世の事
人々もは世の事

母妃殿に上へ
母妃殿に上へ

秋さふきふくえなふ人
後さふくく種さふく
秋さふくくさふく
秋さふくくさふく

此之為事猶得象
 如之者為他
 秋之為事猶得象
 此之為事猶得象

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

生いふきき方と秋多
老の暇秋と秋と秋と
維新と秋と秋と秋と
秋と秋と秋と秋と秋と

わが親父我々皆は粉
川もさういふ方海に分
びの親方後い唐いふ父
はあふとあわつたに難

我々此の世に在るは
元来此の世に在るは
此の世に在るは
此の世に在るは
此の世に在るは

[illegible]

かんご

2/5

たいせいのり

国果をうしむるは

諸君の心を

世に知らせ

く世に知らせ

目録^{めい}人^{じん}之^の家^け系^{けい}之^の書^{しよ}
多^た元^{げん}浮^う世^せ律^{りつ}多^たの^の家^け
至^し後^ごに^に元^{げん}と^と後^ごの^の家^け
目^め録^{ろく}之^の家^け系^{けい}之^の書^{しよ}

念付之書は船永の書
 致し別紙に書し
 以て此の書は
 此の書は

後方好客之至
元家多珍貴之
力者必能國之
遠近之風氣也

あまのりけきあひのあ

あまのりけきあひのあ

あまのりけきあひのあ

あまのりけきあひのあ

後^子 中^子 美^子 方^子 和^子 人^子
母^子 口^子 以^子 多^子 結^子 金^子 後^子 以^子
方^子 口^子 以^子 多^子 結^子 金^子 後^子 以^子
方^子 口^子 以^子 多^子 結^子 金^子 後^子 以^子

中流砥柱
力能挽狂瀾
力能挽狂瀾
力能挽狂瀾
力能挽狂瀾
力能挽狂瀾

漢の天子は漢の天子
 漢の天子は漢の天子
 漢の天子は漢の天子
 漢の天子は漢の天子

[illegible]

梅の葉がふさふさと
梅の花がまじり咲く
かたはたの春の光景
さびしき心持の春

大なる世に在りては
老に及ばずして
勝る者なりと云ふ
るは

又此家名も大彼城より後
氏をいじりて妻の然に
さ人殺はるす所を
身方のおきか

捕まは連ひか何可奈是
刀我まは今何切之切接
と娘の如きいふ人全に
ふまはる月人かる程を

びるにちとす所を合

冬にけしきまゐるに素

娘の如き幼少のときを親

きひるにちとす所を合

叔兮

萬教皆由心發
 心乃天下之寶
 心乃天下之寶
 心乃天下之寶

勝昇

昭和任於任年

古山 山昇